令和8年度「全国学力・学習状況調査」
延岡市の調査結果について

延岡市教育委員会

1　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2　調査の概要

(1)　調査実施日　令和８年４月２３日（木）

※中学校英語（聞くこと・読むこと・書くこと）：４月２０日～４月２４日　/（話すこと）：４月２４日～５月２９日

(2)　対 象 学 年　小学校第６学年、義務教育学校前期課程第６学年
　　中学校第３学年、義務教育学校後期課程第３学年

(3)　調 査 対 象　延岡市公立小学校２５校、延岡市公立中学校１５校、義務教育学校１校

(4)　調 査 内 容　小学校…国語、算数、質問紙調査
　　中学校…国語、数学、英語、質問紙調査

【調査問題：下記①と②を一体的に問う】
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

【児童生徒質問紙調査】
調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する内容

【学校質問紙調査】
調査する学校を対象に、学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する内容

3　実施の概要と調査内容について

全国の小学６年生・中学３年生を対象に学力・学習状況調査が行われ、市内の小学校２４校、中学校１５校、義務教育学校１校が参加※し、上記のとおり、調査問題と質問紙調査に取り組みました。

学習指導要領では、育成を目指す資質・能力が「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理されています。下記４(1)は、「学びに向かう力、人間性等」に関わると宮崎県が考える児童生徒質問紙調査結果の一部を、下記４(2)は「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」に関わる実施教科の調査結果を示しています。

※調査実施日に、浦城小学校に６年生児童が在籍していなかったため、小学校調査は１校未実施です。

4　調査結果の概要

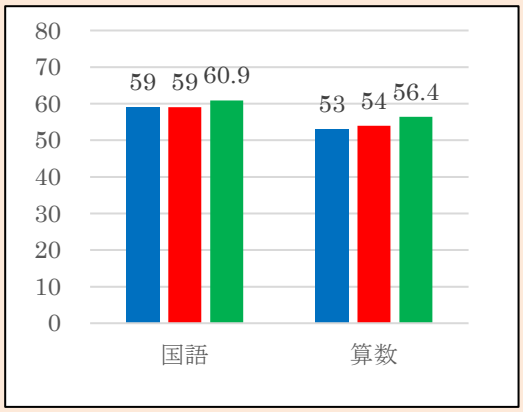
(1)　児童生徒質問紙調査の結果（一部）　※ICT 端末を用いたオンラインによる回答方式

＜数値は、肯定的な回答の割合を示しています：単位（%）＞

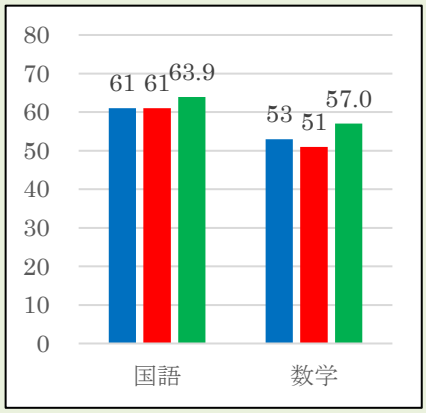
質問事項	小学校			中学校		
	延岡	宮崎	全国	延岡	宮崎	全国
①　人が困っているときは、進んで助けていますか。	94.1	93.3	92.7	91.6	92.0	90.8
②　いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	97.0	96.5	96.2	97.3	95.8	95.1
③　将来の夢や目標を持っていますか。	86.0	84.2	81.8	68.7	68.0	67.6
④　学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	83.2	84.9	85.7	86.5	85.2	87.0
⑤　授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。	89.6	90.9	91.4	91.7	90.6	92.4
⑥　あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。	78.1	79.7	81.5	83.4	81.3	84.5

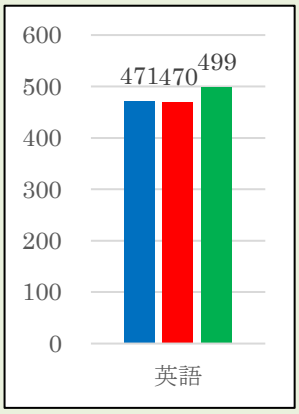
(2)　実施教科の調査結果

小学校第６学年



中学校第３学年





※グラフは、平均正答率を示しています。（単位：%）

延岡市　宮崎県　全国

※中学校英語は、CBT テスト（コンピュータを使用する試験）で実施し、IRT スコアで表示しています。

5　本市の特徴（概要）

○　上記４-(1)「児童生徒質問紙調査の結果」を見ると、①～③の質問事項に肯定的な回答をした児童生徒の割合が全国平均よりも高くなっており、道徳教育やキャリア教育、ふるさと教育推進事業の成果と捉えています。

○　上記４-(1)「児童生徒質問紙調査の結果」を見ると、④～⑥の質問事項に肯定的な回答をした児童生徒の割合は全国平均よりも低くなっており、わかあゆ教育プランで掲げる「仲間と協働して課題を解決する力」の育成について引き続き注力してまいります。

○　上記４-(2)「実施教科の調査結果」を見ると、小・中学校ともに、県の結果とはほぼ同等ですが、全国の平均は下回る結果となっております。

6　児童生徒質問紙調査の状況（詳細）

⑴　学習に関する主な項目について（小学校）

○　以下の質問項目などに肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも高くなっており、先生方の日々の指導や、はげまし隊の方々の支援等により、わかあゆ教育プランに掲げる本市が目指す子ども像や延岡市の子ども達に身に付けさせたい力が身に付きつつあることが分かります。

・　人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。
・　国語の勉強について、「得意ですか」「好きですか」。
・　算数の勉強について、「好きですか」「解き方が分からない時諦めずに工夫しましたか」。

●　以下の質問事項などに肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも低くなっており、自ら問いを立て、課題の解決に向け、仲間と協働する学習活動やたくさんの問題に解答する練習をより一層充実させていく必要があることが分かります。

・　自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。
・　友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。
・　今回の国語・算数の解答時間は十分でしたか。

⑵　生活に関する主な項目について（小学校）

○　以下の質問事項などに肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも高くなっており、自他の幸せのために学び行動する意欲の高まりや家庭との連携が進んでいることが分かります。

・　人が困っているときは、進んで助けていますか。
・　朝食を毎日食べていますか。毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか、起きていますか。
・　親や家族と学校の勉強について話しますか。

●　以下の質問事項などに肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも低くなっており、学校における児童への自己肯定感を高め、児童一人一人や学級集団指導の実態をより把握し、指導に生かしていく必要があることが分かります。

・　自分には、よいところがあると思いますか。
・　学校に行くのは楽しいと思いますか。

⑶　学習に関する主な項目について（中学校）

○　以下の質問項目などに肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも高くなっており、先生方の日々の指導や市内企業等と連携したふるさと教育推進事業、職場体験学習等のキャリア教育が生徒の意識を向上させていることが分かります。

・　数学の学習について、「好きですか」「学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」「学習したことを普段の生活の中で活用できていますか」。
・　英語の学習について、「好きですか」「学習したことは、将来、社会に出た時に役に立つと思いますか」「キーボードを使って英語を書くことができますか。」
・　地域や社会をよくするために何かしてみたいですか。

● 以下の質問事項などに肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも低くなっており、コミュニケーション力の育成や、自ら問いを立て、課題の解決に向け、仲間と協働する学習活動やたくさんの問題に解答する練習をより一層充実させていく必要があることが分かります。

・ 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。
・ 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。
・ 自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していますか。
・ 今回の国語・数学の解答時間は十分でしたか。

⑷ 生活に関する主な項目について（中学校）

○ 以下の質問事項などに肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも高くなっており、自他の幸せのために学び行動しようとする意欲の高まりが分かります。

・ 人が困っているときは、進んで助けていますか。
・ 友達関係に満足していますか。
・ 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはありますか。

● 以下の質問事項などに肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも低くなっており、生徒の心の SOS を逃さない関係性の深化と、集団の中でありのままの自分を表現できる環境整備の必要性が分かります。

・ 困りごとや不安がある時に、先生や学校の大人にいつでも相談できますか。
・ あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか。

7 学校質問紙調査の状況（詳細）

⑴ 小学校について

○ 以下の質問事項に肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも高くなっており、家庭との連携を図りながら家庭学習の充実が推進されていることが分かります。

・ 家庭学習の取組として、学校では、児童に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。
・ 家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。
・ 学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習指導改善に生かしましたか。

⑵ 中学校について

○ 以下の質問事項に肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも高くなっており、理系教科における学習指導要領に沿った授業改善が推進されていることが分かります。

・ 数学の授業において、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか。
・ 理科の授業において、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか。

(3)　小・中学校で共通の結果

○　以下の質問事項に肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも高くなっており、授業支援システム等のＩＣＴ活用による働き方改革や授業改善に向けて進んでいることが分かります。

・　ICT を活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか。

・　児童（生徒）が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどの ICT 機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか。

・　コンピュータなどの ICT 機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか。

○　以下の質問事項に肯定的な回答をした割合は、全国平均よりも高くなっており、延岡の豊かな人材や教育資源を活用したコミュニティ・スクールや地域学校協働活動等が効果的に推進されていることが分かります。

・　コミュニティ・スクールの仕組みや地域学校協働活動等の取組を活用して、学校の運営や教育活動に関し、児童（生徒）が意見を表明することが出来る取組を行いましたか。

・　コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

・　コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組は、学校教育活動の解決だけでなく、地域及び家庭の課題解決や地域活動の担い手育成に貢献していたと思いますか。

８　各教科の状況

(1)　小学校国語科

○　「漢字を文の中で正しく使うこと」「相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えること」等ができるかみる問題において、全国平均を上回っています。

●　「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること」「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと」等ができるかみる問題において、全国平均を下回っています。

(2)　小学校算数科

○　「立方体の体積の計算による求め方について理解しているか」をみる問題において、全国平均を上回っています。

●　「体積の意味について理解しているか」「日常生活の問題を解決するために、図形を構成する要素に着目して直方体の三つの辺の長さを捉え、示された条件を基に、調べたい数量の求め方を数や言葉を用いて記述できるか」「基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるか」等をみる問題において、全国平均を下回っています。

(3)　中学校国語科

○　「文脈に即して正しく漢字を書き、語句を文章の中で使うこと」ができるかみる問題において、全国平均を上回っています。

●　「表現の効果を考えて描写すること」「段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫すること」「語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えること」等ができるかみる問題において、全国平均を下回っています。

(4)　中学校数学科

○　「自然数について、問題場面における考察の対象を明確に捉えているか」「事柄が成り立つ理由を文字を使って説明するための方針を立てることができるか」等をみる問題において、全国平均を上回っています。

●　「数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるか」「三角形が合同であることを、筋道を立てて考え、証明することができるか」「累積度数の意味を理解しているかどうか」等をみる問題において、全国平均を下回っています。

(5)　中学校英語科

○　「日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を聞き取ることができるか」をみる問題において、全国平均を上回っています。

●　「社会的な話題について、話を聞き、要点を捉えることができるか」「音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているか」「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるか」等をみる問題において、全国平均を下回っています。

上記の全国学力・学習状況調査の結果から、教育委員会と各学校のこれまでの取組の成果と今後取り組んでいくべき具体的な課題が見えてきました。

一方で、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえつつ、教育上の効果を高めていく必要があります。

これからも、学校・家庭・地域が一体となって、ふるさと延岡への愛着と誇り、豊かな心と自己肯定感を土台として、自他の幸せのために学び行動する子どもの育成を目指した教育活動の推進を図っていきます。

わかあゆ教育プラン　目指す子ども像

目指す子ども像

幸動（こうどう）　～自他の幸せのために学び行動する子ども～

延岡市の子ども達に身に付けさせたい力

ふるさと延岡の優れた自然や文化、伝統、人との絆を通して身に付けた豊かな心や自己肯定感を土台として、自他の幸せのために、自ら問いを立て、課題の解決に向け、仲間と協働して粘り強く学び行動する力

ふるさと延岡への愛着と誇り、豊かな心と自己肯定感を土台とした学びの姿



ふるさと延岡への愛着と誇り



豊かな心
自己肯定感